

思春期サポートプレイス通信



空の青がひときわまぶしい季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

6月17日(土)に開催した第1回思春期サポートプレイス講演会ですが、75名の方に御参加いただきました。御参加くださったみなさま、ありがとうございました。この号では、第1回思春期サポートプレイス講演会の御報告を中心にお送りします。合わせて今後の日程もお知らせしますので、ぜひ御参加ください。

令和5年度 第1回 思春期サポートプレイス講演会

無気力に見える子供に、どう接するか

6月17日(土)に
開催しました

～コロナ禍が子供に与えた影響～

講師：東京学芸大学名誉教授 小林 正幸 氏



○講演の内容

はじめに、小・中学校における長期欠席の状況について、不登校などを理由とした長期欠席が急増する中、コロナ感染の不安で登校を控える子供が上乗せされていることや、都道府県別の長期欠席率について、文部科学省の調査結果をもとに解説いただきました。小林先生は、「**コロナを恐がることは他人を恐がることでもあり、不登校の心理と紙一重であることを深刻に受け止めるべきだ**」とおっしゃっていました。

コロナは災害であり、災害は、子供をはじめ、社会的弱者に、より悪影響を与えるそうです。また、コロナウィルスは目に見えないので、どこが安全か全く分からず、ピークを過ぎない限り、いつがピークか分からないこと等から、**不安と無気力が増大**する、とのお話がありました。その結果、コロナ禍では、小学4年生以上の15～30%にうつ症状があったことを示す調査結果があるそうです。そして、そのような環境で過ごしたコロナ禍の3年間の学校生活はどのようなものであったか等、お話しいただきました。教育活動で対話の場面が減り、コミュニケーション体験が不足していることで、**人づきあいのコツを身に付ける機会が減少している**ことを指摘されていました。

子供自身に「学校に行かねばならない」との考えが強いほど、しだいに、学校に行くことができない自分を許しがたく考えるようになり、「自分はダメだ」「自分が悪い」「どうせ自分なんか」などと考えるようになるそうです。

そのような子供に対し、保護者は、

- ・保護者自身が安心し、どっしり構える
- ・自分も子供も責めない

といったことを心掛けるとよいそうです。また、子供が自由に話をしやすいような雰囲気になるよう心掛けたり、子供の好きなこと、得意なことを共有したりする機会を増やすことで、子供が家庭を「居心地がよい」と感じるように工夫するとよいとのことでした。



○小林先生のブログ



<https://bravekobaken.com/>

不登校の子供への関わり方など、たくさんの記事が載っています。

*** 令和5年度 思春期サポートプレイス講演会 今後の予定 ***

第2回 10月21日(土)「無気力・不安の背景 ～思春期について知る～」

講師：愛育相談所所長 児童精神科医 齊藤 万比古 氏

第3回 1月20日(土)「社会的自立に向けて ～子供を真ん中に、一緒に歩む～」

講師：白梅学園大学名誉教授 精神保健福祉士 長谷川 俊雄 氏

お申し込みは

03(3360)4192まで

お電話ください。